

視察研修等報告書

視察研修を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 実施日 令和元年9月27日
- 2 参加者名 池田憲彦
- 3 視察および事項 第3回 関西 学校・教育・総合展視察
- 4 視察概要

(1) 11:45~12:30 西条市総務部 ICT 推進課 渡部 誉

「教職員一人あたり年間 162.6 時間の省力化を実現！ スマートシティ西条の「働き方改革」とは？」

Society 5.0 は、狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもので、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱された。

これまでの情報社会 (Society 4.0) では知識や情報が共有されず、分野横断的な連携が不十分であるという問題があった。また、少子高齢化や地方の過疎化などの課題に対して様々な制約があり、十分に対応することが困難であった。

Society 5.0 で実現する社会は、IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。また、人工知能 (AI) により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。社会の変革 (イノベーション) を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となる。

地方自治体においては、地域課題の解決のために ICT を有効な手段として捉え、「Society 5.0」への進展に応じて適切かつ積極的にこれを活用すべきである。

教育分野における取組としては、ICT を契機とした「学び方改革」&「働き方改革」を進め、先生が子どもたちとじっくりと向き合う時間を確保するとともに、自分自身のワークライフバランスを確立させることが急務である。「働き方改革」とは生産性の向上であり、校務の情報化を「学校文化の改革」の契機に職員室の校務を電子化に取り組んだが、効率化が図られた一方で、利用場所・時間に制約があることで利便性が低下し、「利便性の向上、ワークライフバランスの確立」が課題となった。

そこで2016年4月から「教職員テレワークシステム」を導入して、時間や場所を選



ばない、安全な持ち帰り校務が実現した。これは時間外勤務・持ち帰り仕事を推進するものではなく、校務の利便性・安全性・柔軟性・経済性・可能性を高める取り組みである。

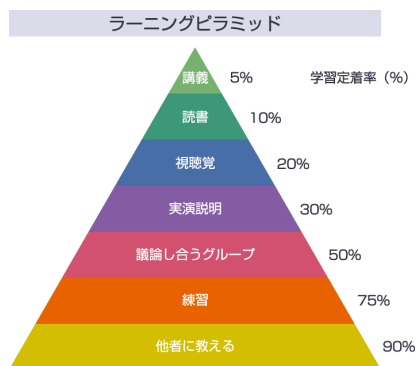
ICT 以外にも、スクールロイヤーの設置、会議・イベント類の精選、夏季休業期間中の学校閉庁日の設定、業務改善にかかる校内研修の実施、環境改善、学校徴収金（給食費等）の公会計化の検討などに取り組み、教職員一人あたり年間 162.6 時間の削減を実現した。

(2) 13:30~14:30 東京大学・慶応義塾大学教授 鈴木 寛

「AI時代の教育 ~今、求められる小・中・高校・大学の教育改革~」
なぜ教育改革をしなければならないのか。

現代は、産業革命・市民革命から始まった近代を卒業して 250 年ぶりの世界、人類、地球の歴史的な大転換期である。2040 年代半ばには、人工知能が人間の知能を上回る Singularity 技術的特異点を迎え、人が携わる仕事で定型業務は無くなり、6 割が今存在しない仕事に就き、誰もが起業家になる時代となる。

20 世紀までは、指示されるまでは勝手なことをしないで、マニュアルを覚えればよかった。これは工業化時代だったからであり、21 世紀に求められる人材は、難問に向き合い希望を生み出し続ける人、「想定外」や「板挟み」と向き合い乗り越え自分たちの幸せを仲間とともに共有しあえる人である。また、AI 時代に求められる能力・資質は、新たな価値を創造する力、責任ある行動をとる力、対立やジレンマを克服する力である。これらのことから、Society 5.0 では、公正に個別最適化された学び、文理分断からの脱却が求められる。



また、ラーニングピラミッドに示されるように、単に講義を受けているだけでは学習定着率が 5%と低く、覚えたことを他の人に教えると学習定着率が 90%になる。つまり、学習者にとって受動的な環境ではなく、能動的になる環境が効果的である。アクティブラーニングは、具体的に言うと講師や教師による一方的な指導ではなく、学習者による体験学習やグループ・ディスカッション、討論会、グループ・ワークなどを中心

とした学習方法を指し、文部科学省は、これからの学校教育にアクティブラーニングを取り込もうとしている。2020 年に改編される幼稚園から高等学校を対象とした学習指導要領に「主体的・対話的で深い学び」の実現を挙げている。

今回の「第3回関西学校・教育・総合展」視察及びセミナー参加で、「働き方改革」・「AI時代の教育改革」及び新しい教育の方向性について多くの知識を習得することができた。この視察・セミナー参加で学んだことを、今後の議会活動に活かしていきたい。